

管内經濟情勢報告



令和 6 年 7 月
財務省 四国財務局

四国財務局管内経済情勢報告

	令和6年4月判断	令和6年7月判断	総括判断の要点	4月判断との比較
総括判断	持ち直している	持ち直しのテンポが緩やかになっている	<p>個人消費は、観光が緩やかに回復しているものの、スーパーやコンビニエンスストアが底堅いものとなっていることから、全体としては持ち直しのテンポが緩やかになっている。</p> <p>生産活動は、汎用・生産用機械で持ち直しのテンポが緩やかになっているものの、食料品が緩やかに持ち直しているほか、非鉄金属が回復しつつあることから、全体としては一進一退の状況にある。</p> <p>雇用情勢は、緩やかに持ち直している。</p>	 (9期ぶり 下方修正)

〔先行き〕

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

項目	令和6年4月判断	令和6年7月判断	4月判断との比較
個人消費	持ち直している	持ち直しのテンポが緩やかになっている	
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
公共事業	前年度並みとなっている	前年度を上回っている	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
設備投資	5年度は前年度を上回る見込み	6年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	5年度は減益見込み	6年度は増益見込み	

※ 6年7月判断は、前回6年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

個人消費

個人消費

持ち直しのテンポが緩やかになっている

(9期ぶり下方修正)

- スーパーは、飲食料品は堅調であるものの、衣料品が弱い動きとなっていることから、全体としては底堅いものとなっている。
- コンビニエンスストアは、米飯類や飲料等に動きがみられるものの、買上点数の減少などから、全体としては底堅いものとなっている。

〔主なヒアリング結果〕

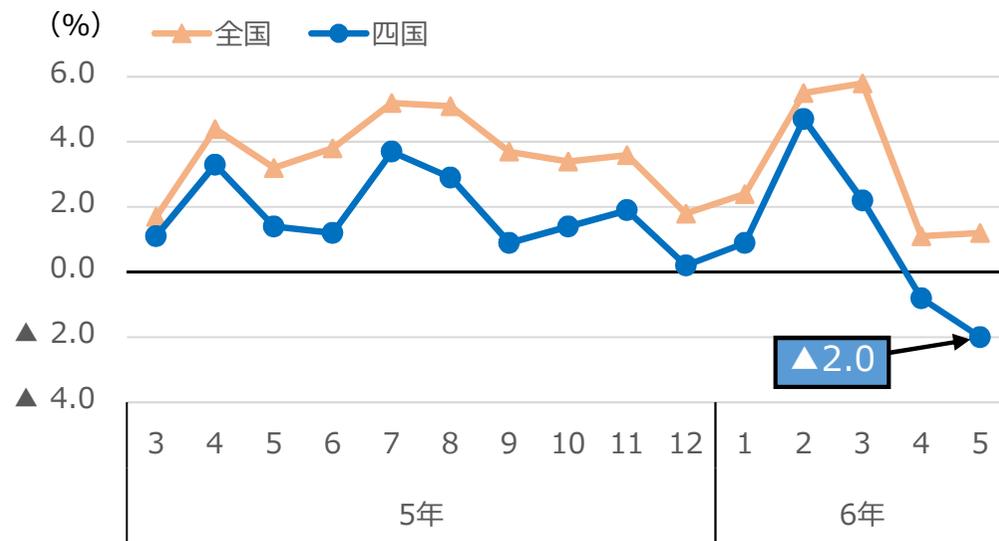
「スーパー」

- 中食需要が順調で総菜の動きは引き続きよい。
- 節約志向の高まりなどから、衣料品の動きが鈍くなっている。
- 割引を行う日にお客様が集中する傾向が続いており、少しでも節約したいという消費者意識がうかがえる。

「コンビニエンスストア」

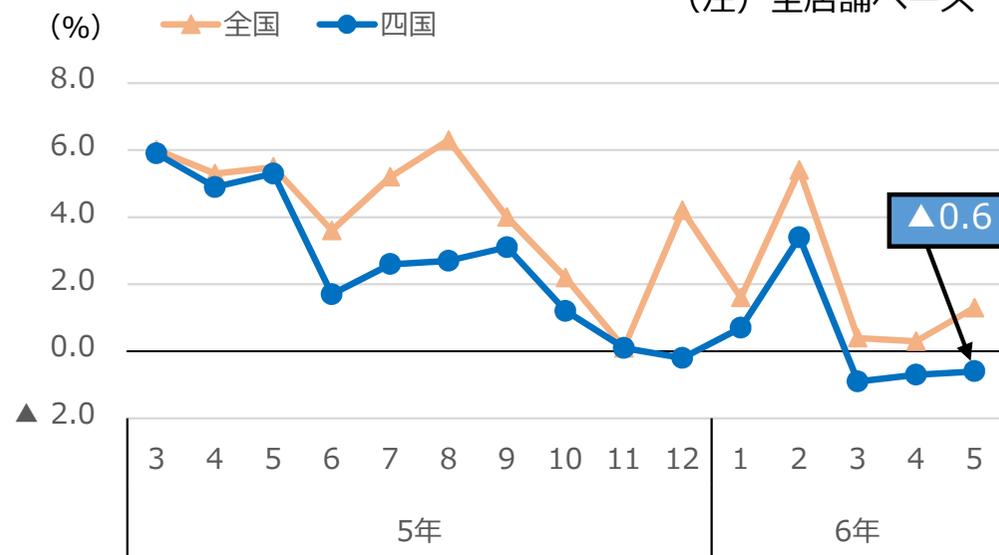
- 販売促進効果などから、ペットボトル飲料の売行きがよい。
- 物価高騰に伴う消費意欲低下により、買上点数が前年割れを起こしている。
- 冷凍食品について、当社オリジナル商品の売上げは前年を上回ったが、相対的に高価なメーカー品は大きく前年割れとなった。

〔スーパー販売額（前年同月比）〕 (注) 全店舗ベース



〔コンビニエンスストア販売額（前年同月比）〕

(注) 全店舗ベース



【出所】 経済産業省、四国経済産業局

個人消費

- ドラッグストアは、飲食料品や化粧品等に動きがみられることから、全体としては順調となっている。
- 家電大型専門店は、エアコンや一部の高付加価値製品に動きがみられるものの、全体としては弱含んでいる。
- ホームセンターは、季節商品や防災用品に動きがみられるものの、全体としては底堅いものとなっている。

〔主なヒアリング結果〕

《ドラッグストア》

- 売場面積を大幅に拡大するなど、特に販売促進に注力している冷凍食品の売上げが引き続き伸びている。生鮮食品も好調。
- 外出機会やマスクを外す機会が増加したことで、化粧品の売上げは着実に回復傾向にある。

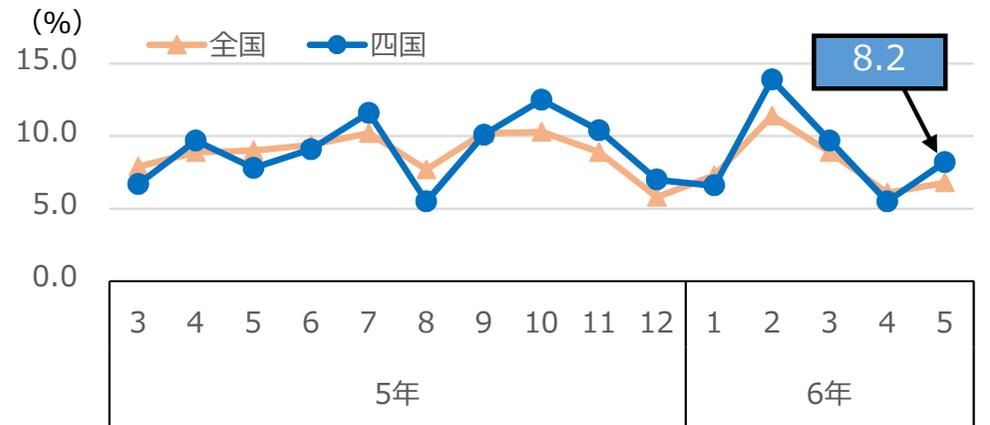
《家電大型専門店》

- 昨年より気温が高かったことや新生活需要から、エアコンの売上げが前年を上回っている。
- 家事の時短に資するドラム式洗濯乾燥機等の人気は継続しているものの、消費者意識は旅行などに向いており、客数は減少。

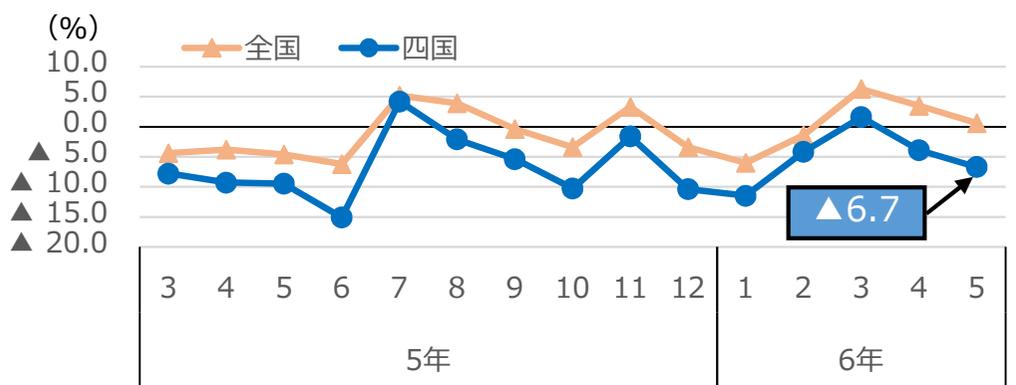
《ホームセンター》

- 気温が高い日が多く、エアコンや空調服、夏用化粧品等が好調。
- キャンプ、アウトドア商品については、アフターコロナの行楽需要に一服感がみられる。

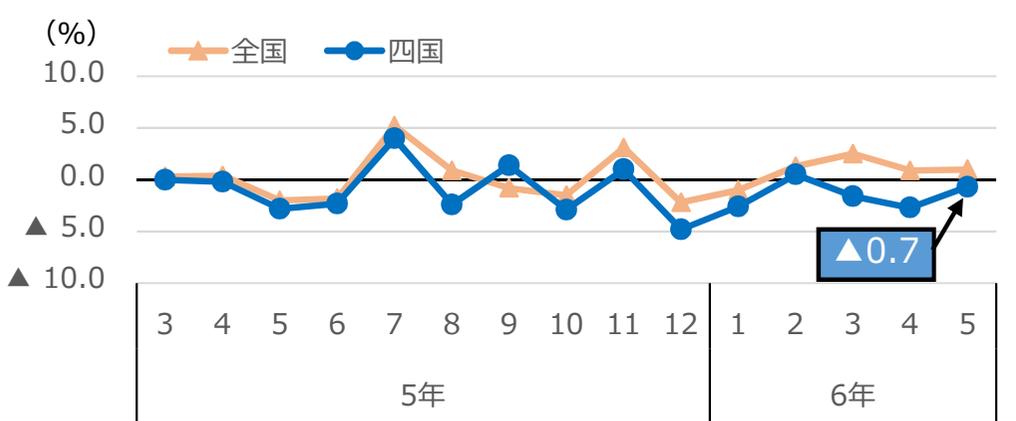
〔ドラッグストア販売額（前年同月比）〕（注）全店舗ベース



〔家電大型専門店販売額（前年同月比）〕（注）全店舗ベース



〔ホームセンター販売額（前年同月比）〕（注）全店舗ベース



個人消費

- 百貨店は、高額品等に動きがみられるものの、衣料品が弱い動きとなっていることから、全体としては底堅いものとなっている。
- 乗用車の新車登録・届出台数は、普通車、小型車、軽乗用車のいずれにおいても前年を下回っている。
- 観光は、外国人観光客の増加により、緩やかに回復している。
- 国内旅行は、回復しつつあり、海外旅行は、緩やかに持ち直しつつある。

〔主なヒアリング結果〕

《百貨店》

- インバウンドの増加などから、ブランドバッグなどの高額品や化粧品が好調。
- 衣料品は「現物は店舗で見て、買うのは（価格の安い）インターネット通販」というお客様も多いのではないか。

《乗用車》

- 自動車メーカーの出荷・生産停止の影響により、登録台数は減少傾向であったが、足もとでは持ち直しの動きがみられている。

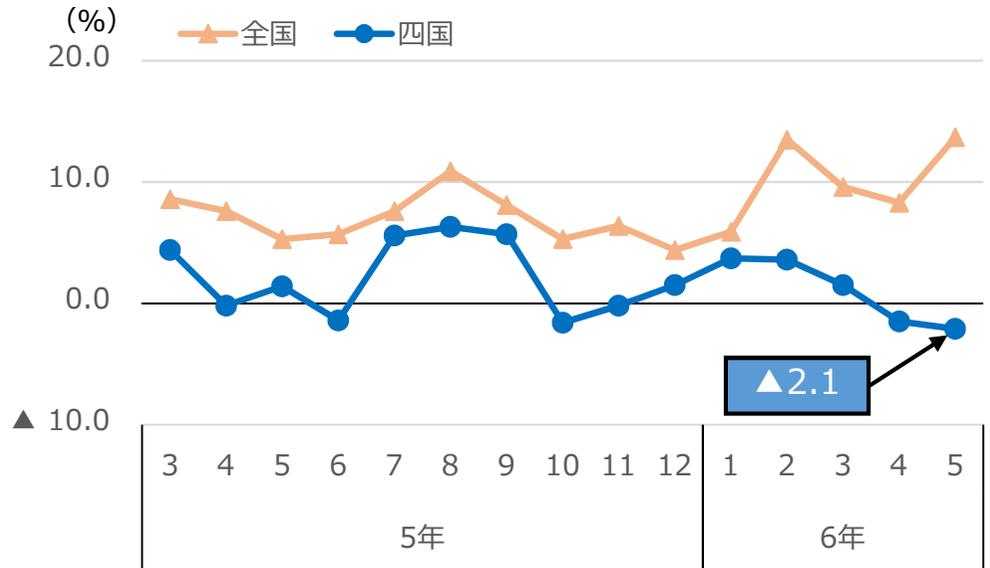
《観光》

- 円安により、アジアや欧米からのインバウンドが好調。

《旅行》

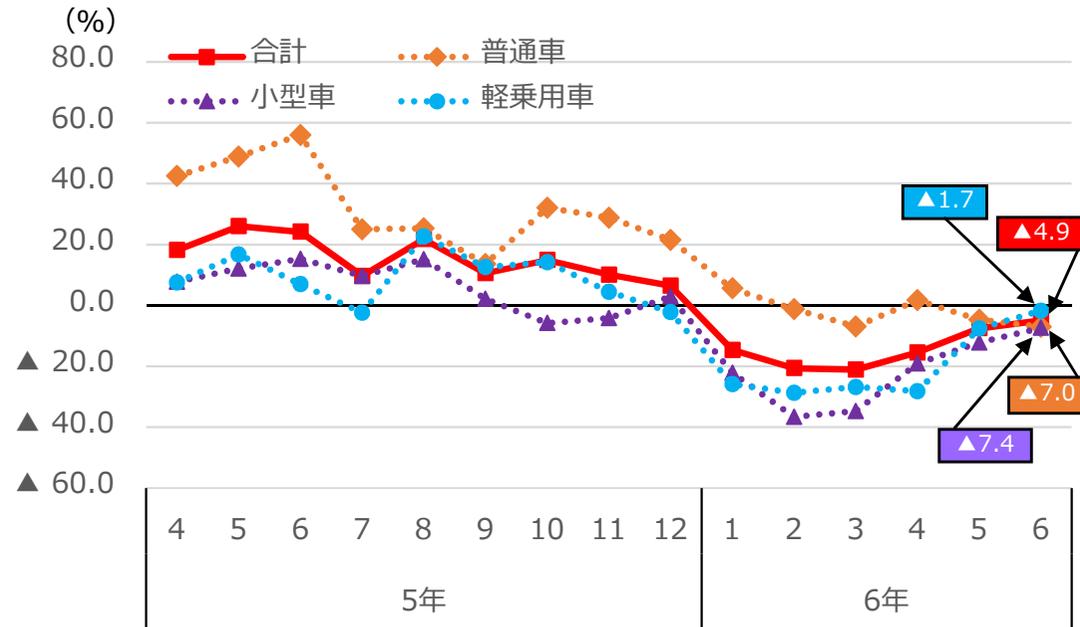
- 新エリアの開業もあり、引き続きテーマパークが人気。

〔百貨店販売額（前年同月比）〕 (注) 全店舗ベース



【出所】 経済産業省、四国経済産業局

〔四国の乗用車新車登録・届出台数（前年同月比）〕



【出所】 四国運輸局の公表データから算出

生産活動

生産活動

一進一退の状況にある

(4期連続据え置き)

- 食料品は、堅調な需要を背景に、緩やかに持ち直している。
- 非鉄金属は、堅調な需要を背景に、回復しつつある。
- 汎用・生産用機械は、一部に弱さがみられることから、持ち直しのテンポが緩やかになっている。
- パルプ・紙は、印刷用紙等に弱さがみられることから、弱含んでいる。

〔主なヒアリング結果〕

◀食料品▶

- インバウンド増加によりホテルバイキング向けが更に好調。人手不足の外食産業への当社製品置き替え提案が奏功。

◀非鉄金属▶

- 原材料仕入れの正常化から生産量は増加。

◀汎用・生産用機械▶

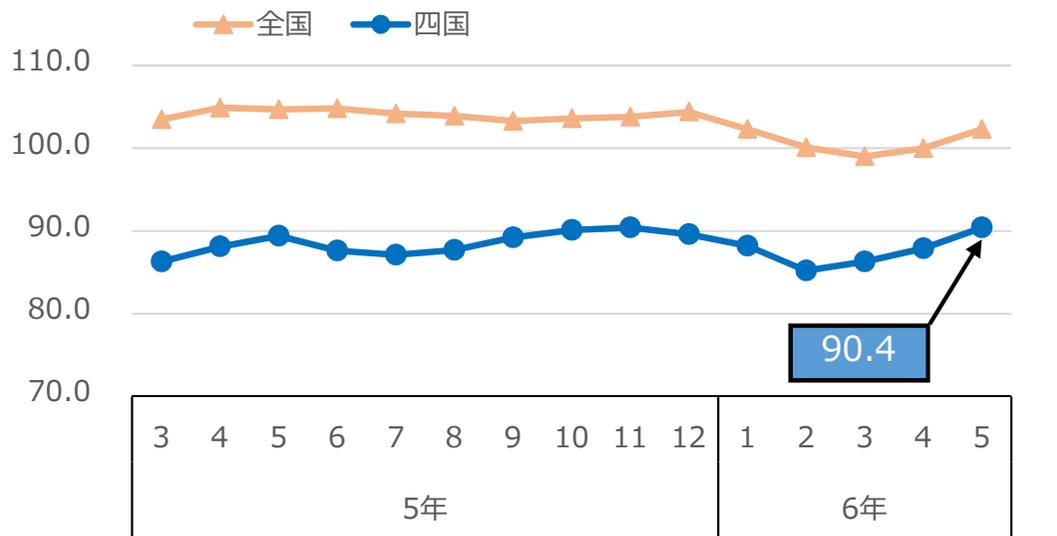
- 部品不足による製造期間延長により生産量が減少。

◀パルプ・紙▶

- 新聞・印刷用紙は、ペーパーレス化、デジタル化など社会の流れによる需要減が続いている。

〔鉱工業生産指数（季節調整済指数、3か月移動平均）〕

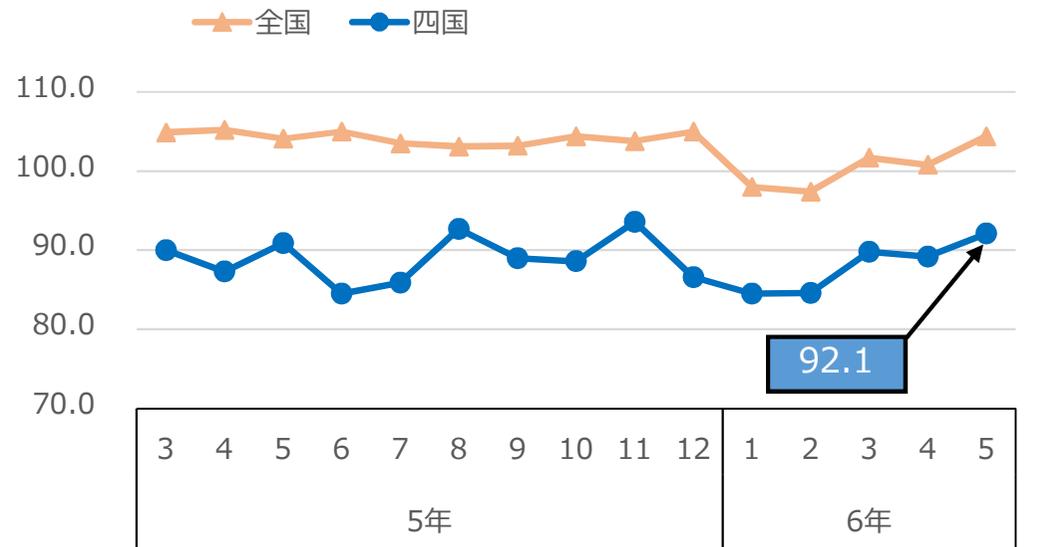
(四国：平成27年=100、全国：令和2年=100)



【出所】経済産業省、四国経済産業局の公表データから算出

〔鉱工業生産指数（季節調整済指数、単月）〕

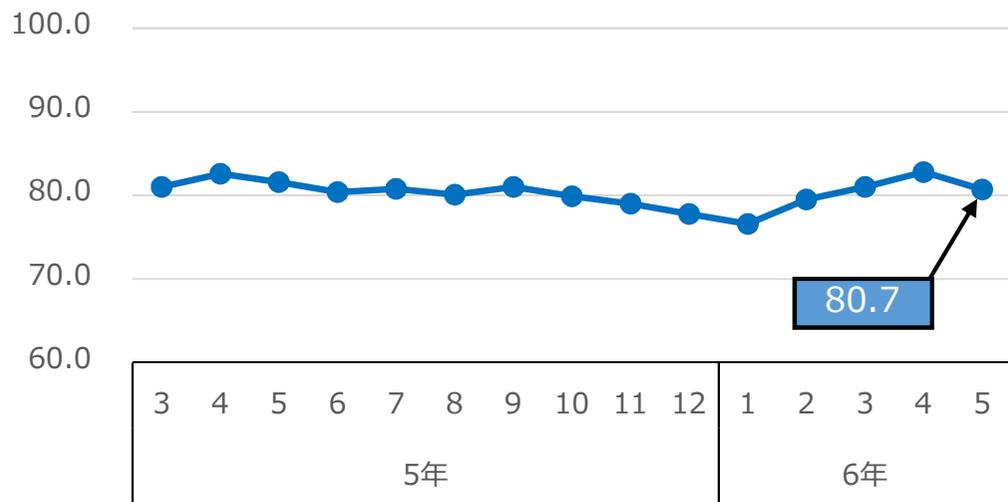
(四国：平成27年=100、全国：令和2年=100)



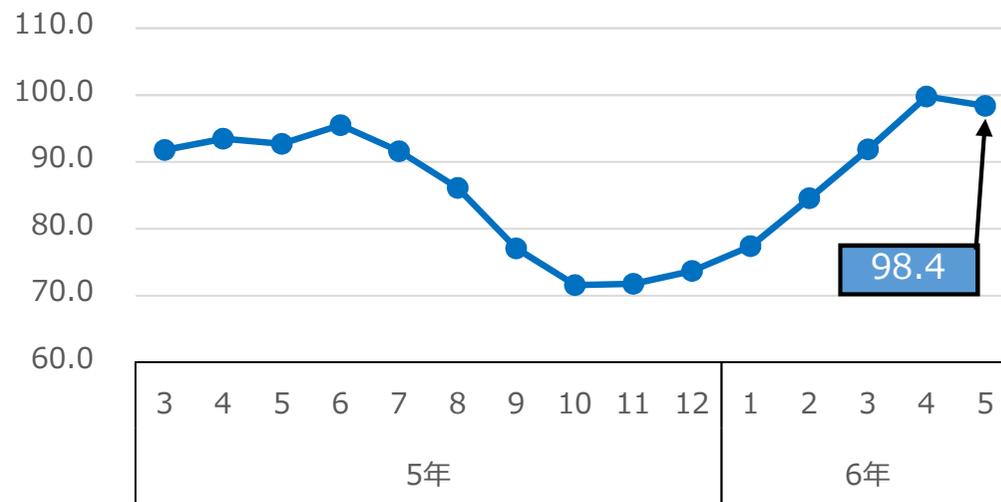
【出所】経済産業省、四国経済産業局

生産活動

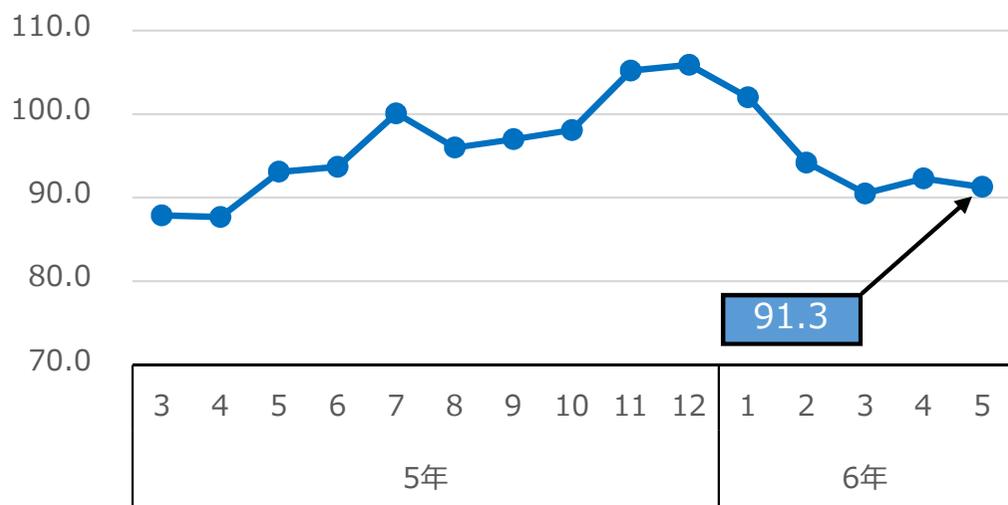
〔食料品〕



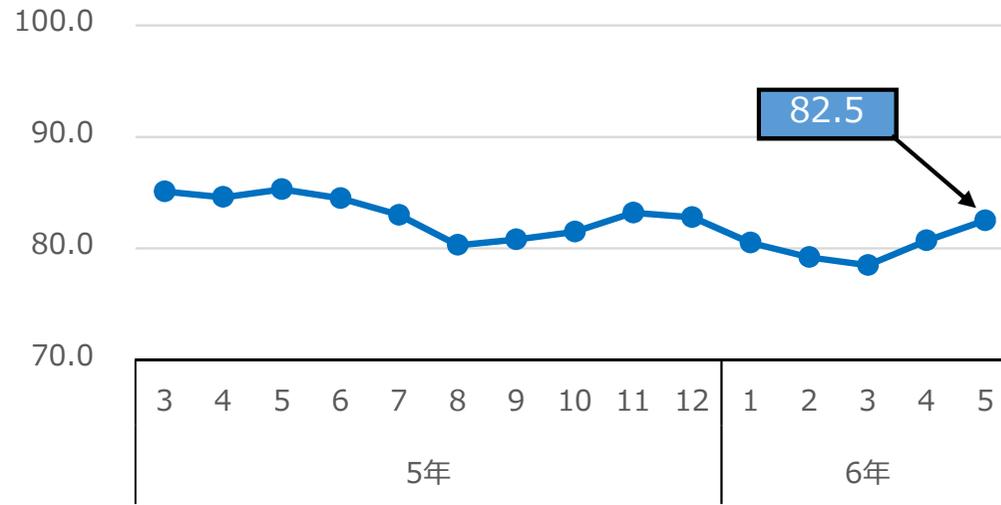
〔非鉄金属〕



〔汎用・生産用機械〕



〔パルプ・紙〕



雇用情勢

雇用情勢

緩やかに持ち直している

(7期連続据え置き)

- 有効求人倍率は横ばいとなっている。
- 新規求人数は前年を下回っている。
- 法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIをみると、6月末は全産業で36.6%ポイントと「不足気味」超となっている。

〔主なヒアリング結果〕

《労働局》

○需要が好調な宿泊業、飲食業、従来からのドライバー不足に加えて2024年問題の影響がある運輸業、さらに企業の人手不足をうけた労働者派遣業などで人手不足感が強い。

○物価高の影響でより賃金の高い仕事を求めて求職する人や、休日の日数など福利厚生面を重視して求職する人が増えている。

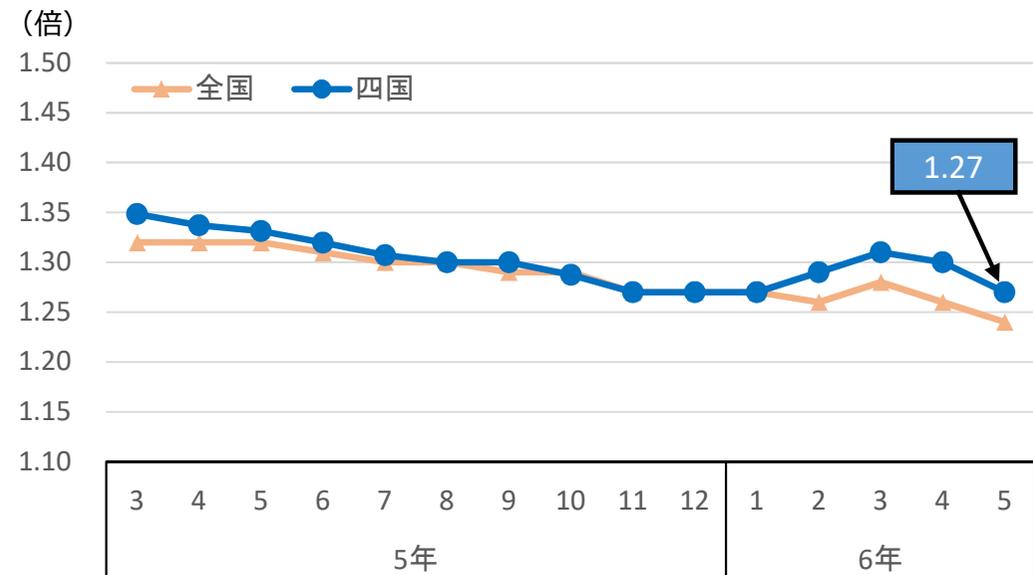
《生産用機械器具製造業》

○今までは高卒を中心に採用を行っていたが、予定していた人数を採用できなくなっているため、中途採用に注力している。

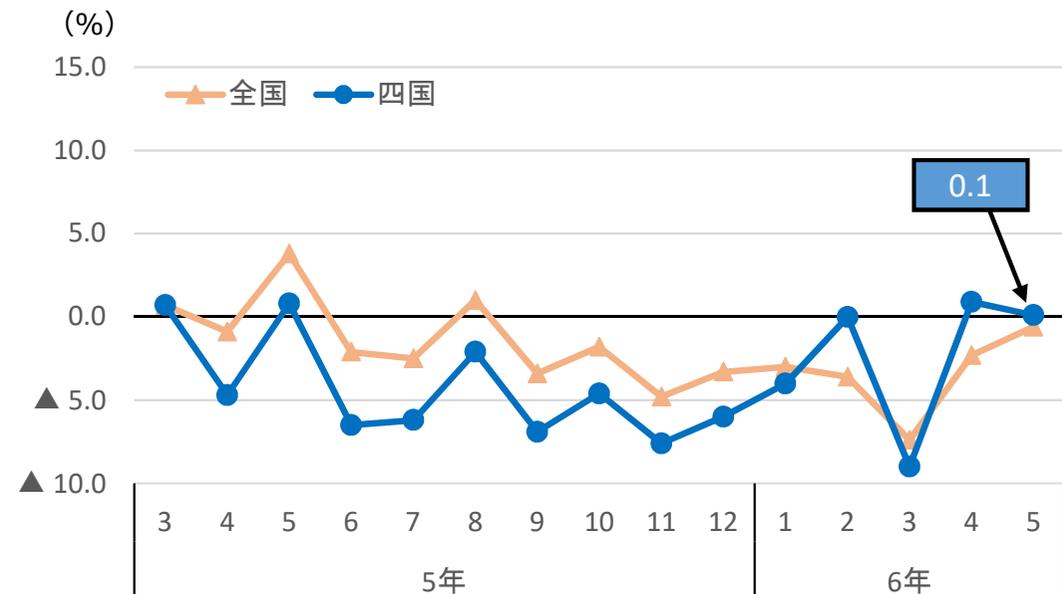
《宿泊業、飲食サービス業》

○利用者が増加していることから人手不足となっており、レストランに定休日を設けるなどの影響が出ている。

〔有効求人倍率（季節調整値）〕



〔新規求人数（原数値、前年同月比）〕



【出所】厚生労働省の公表データから算出

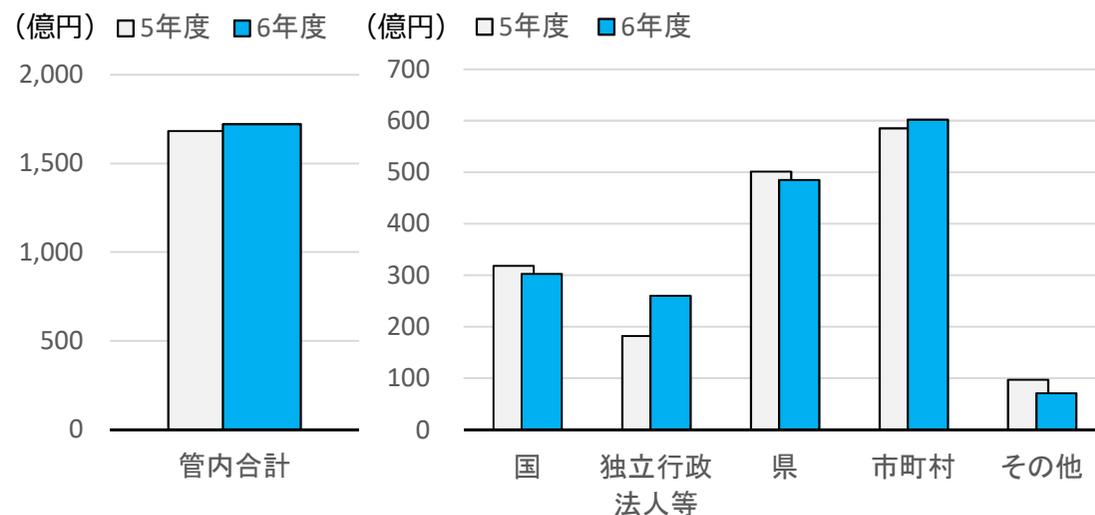
公共事業・住宅建設

公共事業

前年度を上回っている

○前払金保証請負金額で見ると、国及び県は前年度を下回っているものの、独立行政法人等及び市町村は前年度を上回っていることから、全体としても前年度を上回っている。

〔四国の公共工事前払金保証請負金額（6月累計額）〕



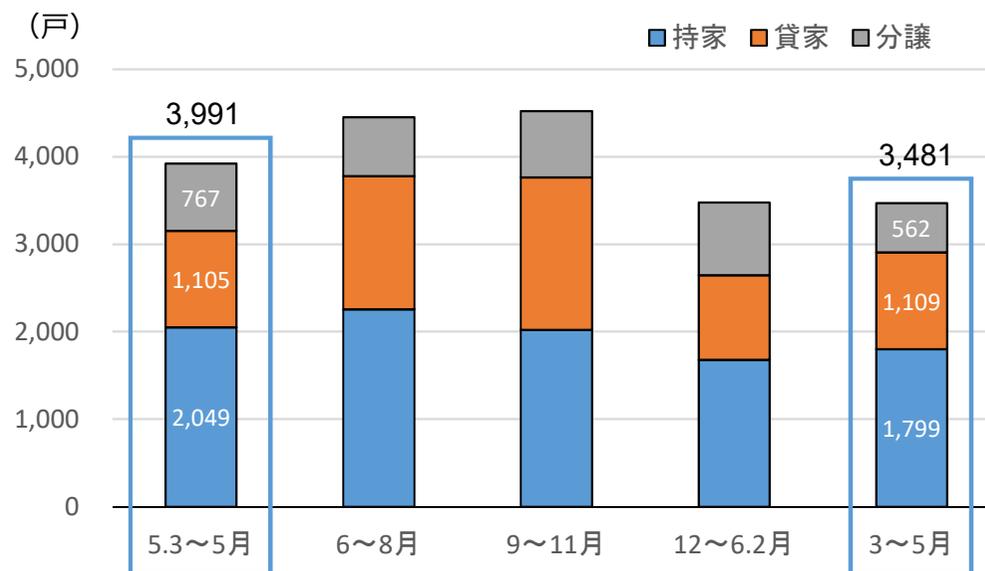
【出所】西日本建設業保証（株）等

住宅建設

前年を下回っている

○新設住宅着工戸数で見ると、貸家は前年並みとなっているものの、持家及び分譲は前年を下回っており、全体としても前年を下回っている。

〔四国の新設住宅着工戸数〕



〔主なヒアリング結果〕

○建築資材の価格高騰や人口減少により、需要が低迷した状況が続いている。

※合計は給与住宅を含む

【出所】国土交通省の公表データから算出 8

設備投資・企業収益・企業の景況感

設備投資

6年度は前年度を上回る見込み

○6年度の「設備投資」は、製造業及び非製造業で前年度を上回る見込みとなっており、全体としても前年度を上回る見込みとなっている。

企業収益

6年度は増益見込み

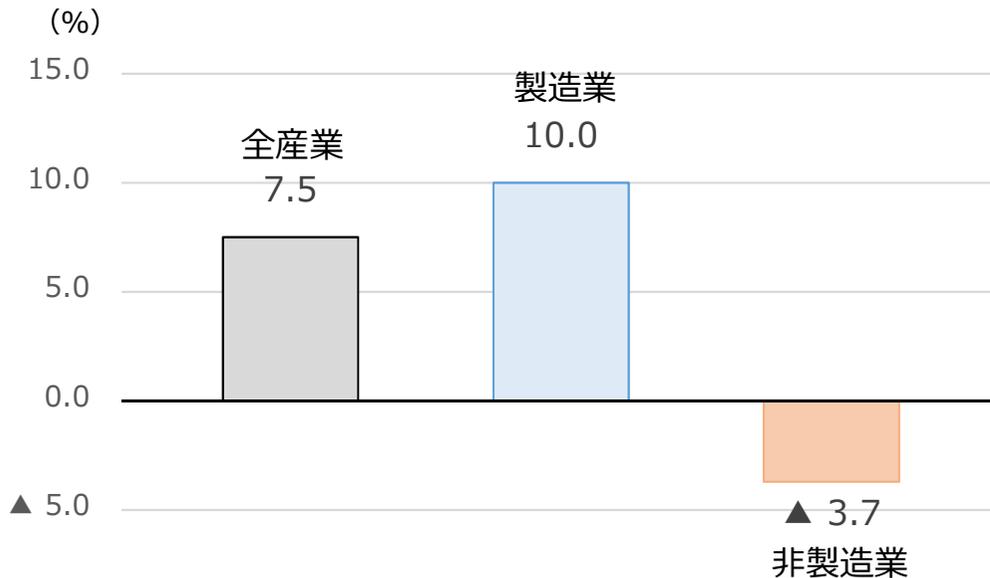
○6年度の「経常利益」は、非製造業で減益見込みとなっているものの、製造業で増益見込みとなっており、全体としても増益見込みとなっている。

企業の景況感

「下降」超

○6年4～6月期は、製造業及び非製造業で「下降」超となっており、全体としても「下降」超となっている。

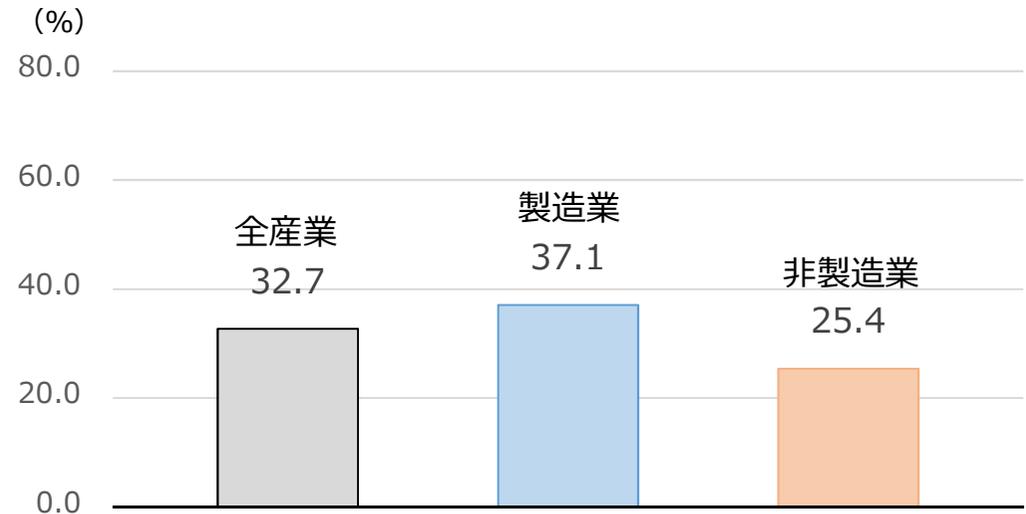
〔経常利益（四国、前年度比）〕



※6年4～6月期調査の結果

※「電気・ガス・水道」、「金融、保険」を除く管内に本店が所在する企業

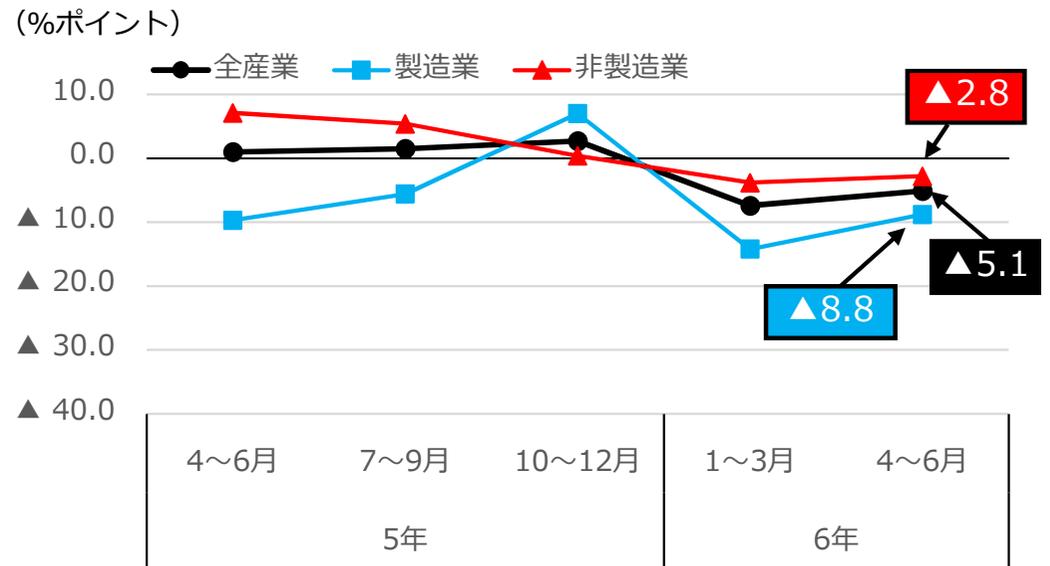
〔設備投資（四国、前年度比）〕



※6年4～6月期調査の結果

※ソフトウェア含む、土地除く

〔企業の景況判断BSI（四国）〕



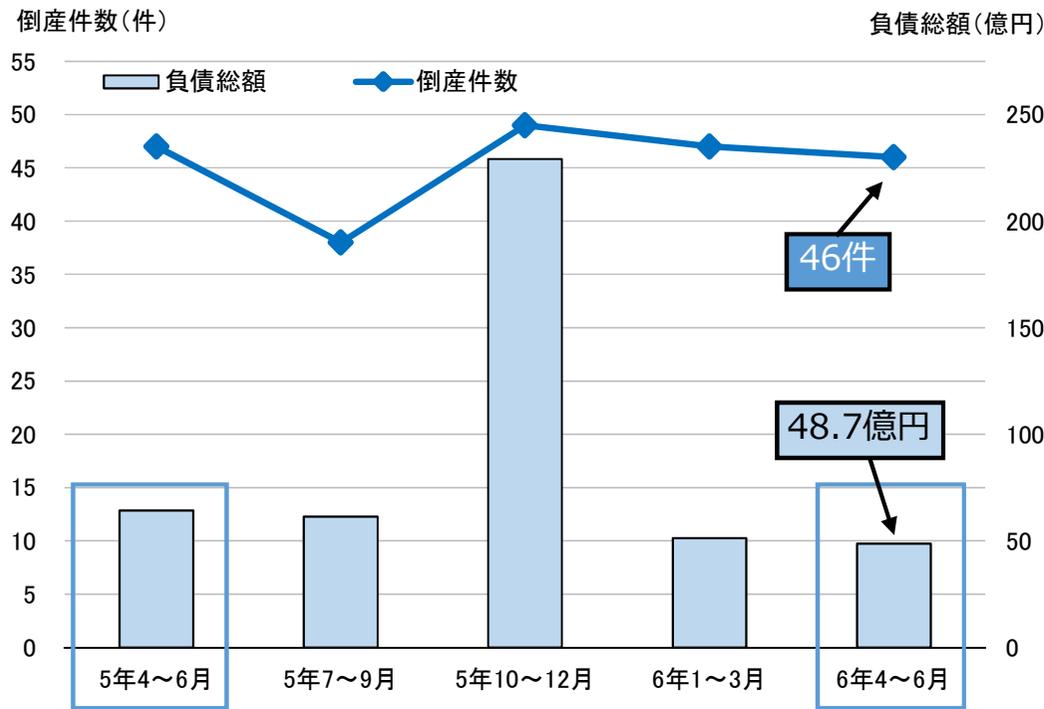
【出所】四国財務局（法人企業景気予測調査）

企業倒産・消費者物価（参考）

企業倒産

件数、負債総額ともに前年を下回っている

〔四国の倒産件数・負債総額（負債額1,000万円以上）〕

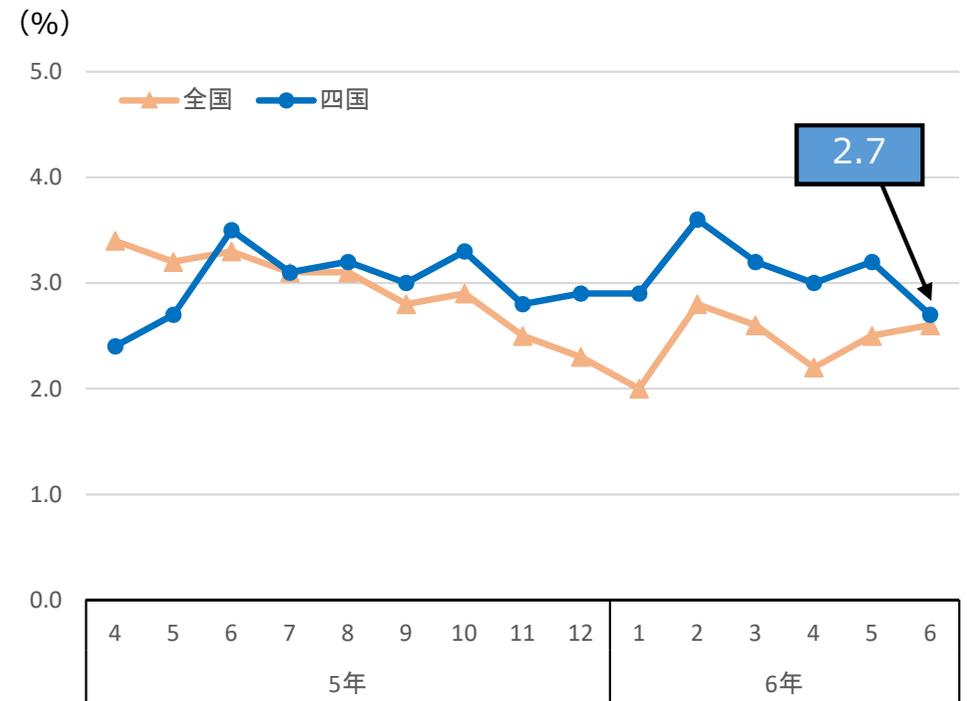


【出所】 東京商工リサーチの公表データから算出

消費者物価

前年を上回っている

〔消費者物価指数（生鮮食品を除く総合、前年同月比）〕



(2020年 = 100) 【出所】 総務省

※計数は、季節調整替え、基準改定、速報の確報化、誤計数の判明等により、過去に遡って訂正される場合があるので、利用される場合は、各発表機関の直近の公表データをご確認ください。

■お問い合わせは

電話番号 087-811-7780

財務広報相談室（内線260）又は 経済調査課（内線250）へ

ホームページアドレス <https://lfb.mof.go.jp/shikoku/>

